

発表を終え一小学生への説明は、中学校の先輩や地域の方々に伝えるのは違った難しさがあると思った。ゆつくりと説明し、分かちやすく伝えるように工夫した」と振り返った。

一方、小学生9人は、それぞれの発表に真剣な表情で耳を傾けるとともに、今後の授業に生かそうと熱心にメモを取った。積極的に発言を行い、感想や疑問を伝えながら中学生と交流を深めた。

6年生の黒澤我流君(12)は「この発表も、細かいところまでよく調べていると思った。最初は難しい内容が多いと予想していたが、どれも分かりやすかった」と話していた。

この日は、1歳未満児と母親が来場。地元のアマチュア・マジシヤンス・クラブ大船渡のメンバーによるマジックショーのほか、同ルーム隣のヤマハ音楽教室の講師による電子オルガンの演奏、足形マジックショーなどが開かれたクリスマス会

マジックなど楽しむ

大船渡

ママサロンでXマス会

大船渡市のNPO法人こそだてシップ(伊藤怜子理事長)は13日、盛町のサン・リア内にある子育て支援センター「すくすくルーム」でクリスマス会を開いた。市内の親子15組が参加し、マジックショーや楽器演奏などで憩

号に込められた意味や思いに理解を深め、よい年にしてほしいとの思いを新たにしたい。



いのひとときを過ごした。すくすくルームでは毎月、母子相談や妊婦相談などを受け付ける「ママサロン」を開設。クリスマス会は同サロ

ンの活動の一環で、同市の市民活動支援事業補助金を活用した。

アートのクリスマスカード作りなどが行われた。このうち、マジックショーでは、何もなかったところから花や布が出てきたり、結んだ複数のひもが結び目のない1本のひもに変わったりと、不思議な光景に親子が大興奮。母親らは、のびのび遊ぶ子どもたちの姿に笑顔を広げていた。

